



EBENEZER  
OPERATION EXODUS

成長する

# アリヤー

のチャレンジ



ユダヤ人のイスラエル帰還を支援するクリスチャンの国際団体

# 成長するアリヤーのチャレンジ

国際



ヨハネス・バルテル  
JOHANNES BARTHEL  
地区コーディネーター

夏の期間にイスラエルで過ごすことは、大いに祝福され実りある時でした。私たちは自分たちの目で、新しいオリム達が彼らの祖先の地に到着するのを見ました。子供を連れた家族がイスラエルでの新しい生活に期待をふくらませているのを見ました。それは、本当に素晴らしいことでした。エベネゼルの出エジプト作戦のボランティアチームとスタッフ13人が、7月にベン・グリオン空港で行われた大きなアリヤーの歓迎会に参加することができました。そして彼らの到着とともに喜ぶことができました。

アリヤーの人数は急速に増加しています。2019年の初めの7か月間で世界中からのアリヤーの数は24パーセント増加しています。私たちエベネゼルチームにとってこれは大きなチャレンジです。私たちの召しに忠実であり続けるために、特に旧ソ連地区においては、財政的、また物資における奇跡が必要です。長年の間、私たちは神様がユダヤ人の心をかきたててくださるようお祈りしてきました。今日、そのことが実際に目に見える形で表れております。私たちに支援を求めるオリムを、私たちは誰一人拒絶するようなことはしたくないのです。神様は誰一人残されることがないので、私たちも誰一人残すようなことはしたくないのです。

私たちはイスラエルキャンペーンにおいて投資してきたことの実を見ています。オリムのための新しいハイファ・ハウスは、8月25日に開設しました。私たちはそこに毎年何百人ものオリムを迎える予定です。寛大な献金を通して、アシュドテにあるアパートを維持することが財政的に可能になりました。このアパートは、経済的に困窮しているオリムやホロコーストの生存者のために用いられることになっています。貧しい者に住む場所を提供することは、神様の心にあることなのです。(詩篇41章1節)

私たちはユダヤ人がアリヤーすることを支援し続けていきます。そしてこのことにはキターも含まれています。「キター」という言葉はヘブライ語で、イスラエルに到着したオリムを吸収するという意味です。このことは、社会に適応することや、ヘブライ語を学ぶこと、仕事や家を見つけること、学校に入学することやイスラエル国防軍に従事することなどが含まれています。これらは、アリヤーの過程でも大切な部分で、私たちの働きの中でますます重要な位置を占めるようになっていきます。しかし、これにはかなりの労力が必要です。私たちは、神様がオリム達を受け入れるためにさらに多くのアパートや家を与えてくださり、この緊急な時代に彼らに特別な支援をする機会を与えてくださることを信じています。



左から右へ：  
イスラエルのハイファハウス；  
若い帰還者

イスラエルのための祈り。

テロ攻撃で破壊された村、メボ・モドリムで私たちが支援をした映像がYoutubeにありますのでご覧ください。

<https://www.youtube.com/c/EbenezerOperationExodus>

アリヤーの人数が増えるにつれて、さらに国際的なエベネゼルの働きに加わる人々が必要になっています。私たちにとってもっとも尊い祝福は、何百人ものボランティアの奉仕者、とりなし手、そして支援者です。私たちはできるだけ多くの教会にも関わっていただくように努めています。しかし私たちはまた、多くの教会が反イスラエルの教えや神からのものではない影響から自分たちを守ろうとしているのに気が付きます。エベネゼルは、神様がイスラエルの民と永遠の契約を結ばれていることについて、また聖書的な教えを教会に分かち合うことができます。

7月には、18歳から35歳までのいくつかの青年の団体がイスラエルを訪問しました。彼らはユダヤ人に仕えることを通して神に仕えたいという願いをもっています。それを見る時に、私たちはとても励まされます。私たちがこの若者たちを助け励まし、エベネゼルにおいて彼らが自分の場所を見出すことができるように助けることができるよう、お祈りください。イエス様と使徒たちは、弟子を作ることについて私たちによい見本を見せてくださいました。私たちは若者たちが成長することを助け、彼らに責任を任せていく用意があるのではないのでしょうか？それをするところこそが、健全な増加と成長の為に必要な事なのです。

私たちは聖書的な弟子訓練の基本的な原則を教えたい人達にも、また自分達自身にも確認しておかなければならないことがあります。



•私たちは神のしもべであって、人や自分の願いのしもべではないということ。

•私たちは神の恵みに召されたものなので、神様ご自身が、私たちが忠実な賜物の管理者となるためにすべての賜物を与えてくださるということ。

•与えることは、受けることよりも重要であるということ。

•実りある働きをともにしていくために、国家的な偏見や障壁に打ち勝つことが重要であること。

•私たちは神の御国を第一とする姿勢が必要である。それは、私たちが自分の国でチャレンジに直面するとき特に重要である。エベネゼルは、私たちがより大きな召しの一端を担っていることを理解しなければ機能することができないということ。

すべての教会が、聖なる神を恐れる生き方をする献身した信者を生み出すということを当たり前のように思うことはできません。しばしば祈りや聖書の学びが欠如する場合もあるのです。神様が、整えられて召しを受けている人々が誰かを示してくださるように祈りましょう。多くの国々では、若い人たちも私たちとともに奉仕を始めています。彼らをサポートし励ましましょう。そして聖霊様に働きをどのように導いていくべきかの新しい創造的なアイデアをくださるよう祈り求めましょう。これは、技術の問題ではありません。むしろ人格とクリスチャンとしての生き方にかかわるものなのです。

最後に、私は皆さんに信仰の一步を踏み出すようにチャレンジしたいと思います。聖書を学び、時を理解することを通して、私たちの働きは決して無駄ではないと確信することができます。私たちのユダヤ人の友人たちはこう言っています。アリヤーは聖なるものであり、全能なる神様からの命令であると。聖書では、ローマ書14章23節で「信仰から出ていないことはみな罪です。」と私たちに教えています。

アリヤーの主であるイスラエルの神への祈りを決して怠らないようにしましょう。エベネゼルチームがオリムとともに働いている国を少なくとも一つ選んで、定期的に祈り続けていただけたらと思います。そして、神様が私たち一人ひとりに、将来のチャレンジのためにどのように準備していったらよいかを示してくださるようお祈りくださるようお願いいたします。

## 用語解説

アリヤー(Aliyah):  
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):  
1929年C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):  
イスラエルに帰還するユダヤ人

# アリヤー ロシアにおける目覚め

ロシア



ロシア  
ボリス・バシュコフ  
BORIS VASYUKOV

ロシアからのアリヤーは未だかつてないほどの成長を経験しています。イスラエルのユダヤ機関による公式発表では、2018年に10673人のオリムがロシアから帰還したということです。この数字は前年と比べて46パーセントの増加となっています。その多くのオリムたちは、エベネゼルの支援によって帰還しています。

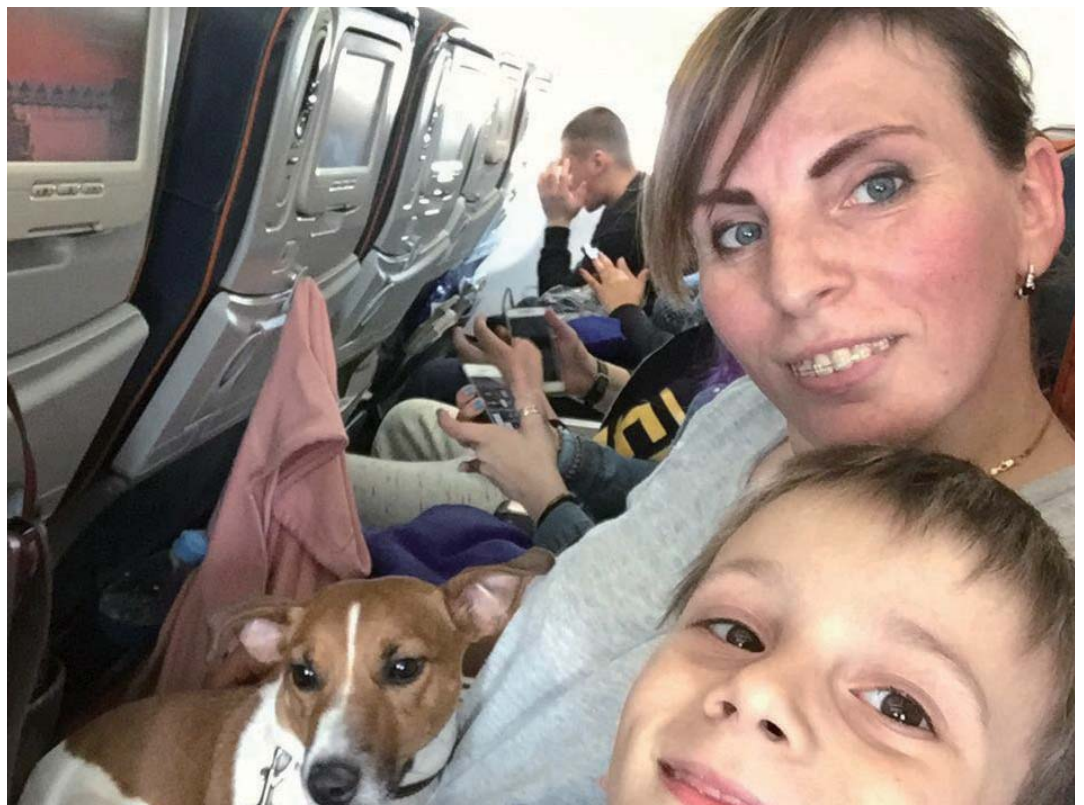
アリヤーは今年も増加しています。これまでに、昨年と同時期と比べて30パーセントを上回るオリムの支援をしてきました。2019年の終わりまでには、5500人のユダヤ人が、エベネゼルの支援によって約束の地へ帰還したことになるでしょう。

ロシアでのこの増加によって、エベネゼルのモスクワチームは非常に忙しくなっています！ここから、毎月300人のオリムがイスラエルへ飛び立って行くのです。（毎週ユダヤ機関の財政支援による飛行機が2、3便出しています）エベネゼルのチームは彼らの移

動やその他の実際的な支援をしています。3台のミニストリーの専用車はほぼ休みなく働いています。モスクワの諸教会のクリスチャンたちがオリムたちを空港に車で送る支援をしてくださっていることに、深く感謝しています。彼らは自分の車を提供してユダヤ人の家族の送り迎えを喜んでくださっています。

ロシア極東やシベリアやウライス、ロシア南部、北コーカサス地方にいるエベネゼルチームも、アリヤーするユダヤ人家族の人数が増加しているため、彼らを支援することは大きなチャレンジとなっています。

他国からのアリヤーが減少したり、少しずつ増加しない中、なぜこのようにロシアからのアリヤーが近年急に増加しているのでしょうか？ある人たちは、ロシアにおける生活状況が近年悪化しているからだと言っています。しかし実際には、状況はそれほど悪いわけではありません。ロシア経済は近年安定して成長しているのです。



愛犬と共に帰還

では、一体何がアリヤーの急成長をもたらしたのでしょうか？

その答えの一つは、エベネゼルが24年にわたってロシアで働きをしてきたことにあるかもしれません。この期間にユダヤ人のアリヤーを支援してきただけでなく、ロシアの福音的教会にイスラエルに対する神の御計画と目的を理解するためのメッセージを伝えてきました。私たちは長い間、拒絶を受け苦しみました。それは、多くの教会がこのメッセージを受け入れなかったからです。しかし、そのような状況の中でも、私たちはあきらめず彼らの扉をたたき続けました。

今日では、ロシアの福音的教会はイスラエルに関して真の目覚めを体験しています。メシアのからだは、ユダヤ人のために声を上げるようになってきました。また、ユダヤ人とクリスチアンの対話も進み、国中へ広がっていきました。イスラエルのための合同祈禱会も国中で定期的で開催されています。2020年には、イスラエルのためのロシアの全国祈禱

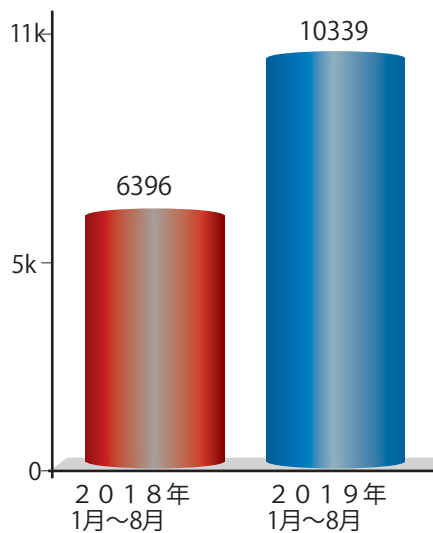


会という新しいプロジェクトも始まります。現時点では、ロシアの250ほどのキリスト教会が支援することになっています。

皆さんのサポートと経済的支援に感謝します。それがあからこそ、私たちはこれほど多くのユダヤ人の家族がイスラエルに帰還することを支援することができるのです。そしてそれは、神様のご自身の民のための御計画の成就なのです。

どうか、ロシアからのアリヤーがさらに増加し続けるように、またロシアの教会がイスラエルに対してさらに大いなる目覚めが与えられるように、お祈りくださるようお願いいたします。

ロシアからの帰還は62%増加しています。



ロシア

ロシアの教会をめぐって  
ビジョンを伝える



## ウズベキスタン



ザーナ  
Zhanna  
ウズベキスタン

写真 上: アリシャーとムスリマと家族がイスラエル行き飛行機に乗り込むところ

# 疑いに打ち勝つ

私は最近ウズベキスタンで18ものユダヤ人の家族に出会いました。その中に、アリシャー、ムスリマ、そして彼らの4人の子供たちがいました。彼らは7年前にアリヤー申請をしたのですが、彼らの申請書が不備だったため受理されませんでした。しかし今回エベネゼルの支援もあり、彼らはもう一度申請し、今回は書類が受理されました!

彼らは土地を売る必要もなく、出発が遅れる要素はなかったのですが、アリシャーとムスリマはイスラエルへ帰還することにためらいを感じ始めたのです。なぜなら彼らはイスラエルでの生活に適應できるか疑いを持っていたからでした。その上、アリシャーは何年前にも自動車事故にあったため、彼の僅かな障害支援金で何とか生活していました。また、彼らの長男も脳性麻痺を患っていました。

私たちは何とか彼らを励まそうとしました。また、彼らの元に食料品や衣類などの人道的支援品を届けました。その後感謝なことに、アリシャーとムスリマはアドバイスを受け入れ、彼らの最終準備に取り掛かりました。領事が

新しくなったため、彼らはもう一度書類を提出しなければなりません。それで、私たちは彼らを領事館に連れて行きました。そしてそこで彼らはテル・アビブ空港へ向かう飛行を予約することを承認してもらえたのです。

どうか、アリシャー、ムスリマと彼らの家族が主によってイスラエルの地にしっかりと植えられるようにお祈りください。



## カザフスタン



ZHANSOLU  
ザンソル  
カザフスタンのリーダー

写真  
若者が食料品とアリヤーの情報を受け取っている

# アリヤーのメッセージを広める

この国中の諸教会を最近訪れる中で、牧師や教会の方たちが私を温かく迎えてくださり、神様がイスラエルとアリヤーに対して持っておられる御計画について熱心に耳を傾けている姿を見てとても祝福を受けました。

その一つの場所はタラズでした。私は30人から50人ほどの小さな教会を4つ訪れました。彼らは、私がエベネゼル出エジプト作戦が、ユダヤ人のアリヤーを支援することについて説明するのを熱心に聞いていました。牧師の一人が私を彼の家に招いてくださり、私たちはともに交わりを楽しみました。

タラズにおいて、私は地区センターで何人かのユダヤ人に会いました。そして必要のあるユダヤ人達に30個の食料品の物資を提供しました。この集まりにはかなり多くの若いユダヤ人達がありました。そしてその多くの人たちがイスラエルに帰還したいという願いがあると語っていました。

私は神様の御手が、この旅で訪れたすべての町々の上にあったことを見ました。神様の恵みとあわれみに栄光がありますように!



# 息子の後を追って

コンスタンチンの長男は、すでにセラ学習プログラムでイスラエルへ行っていました。彼も後に続く準備ができました。

コンスタンチンと妻のオクサナと彼らの子供たちは東ウクライナに住んでいました。コンスタンチンは鉄道で技師として働いていました。オクサナは娘が生まれるまでは経理の仕事をしていました。娘が生まれてからは主婦となりました。

彼らの長男のアレクシーは4年前にセラプログラムを通してアリヤーしました。プログラムを修了した後は、イスラエルの軍隊で働き、その間にヘブライ語と英語を習得しました。彼はその後就職し、また大学への入学申請もしました。

18か月前にコンスタンチンがイスラエルにいる息子の所に訪れている間に、彼はイスラエルでの生活についてもっと知ることができました。それで彼も息子の後についてアリヤ

ーしようと思いついたのです。その直後に、彼は家族とともにアリヤーの申請をしました。彼らはすぐにビザを取得することができ、3月にアリヤーし、今はエイラットに住んでいます。彼らは私たちの支援に感謝していました。



ウクライナ



タチアナ  
Tatiana  
ウクライナ地区代表

写真

上:紅海にあるエイラット海岸  
左:コンスタンチンと彼の家族がイスラエルへ向かって旅立つところ

## ついにイスラエルへ

ブラディミルは長年イスラエルへ帰還したいと願っていました。しかし悲しいことに何年もの間、アリヤーすることを延期せざるをえない状況にありました。

はじめは、彼は年老いた両親の介護をしなければならなかったため、ロシアを離れることができませんでした。そして悲しいことに、妻が病気になりその後亡くなりました。これらの状況により、13年前にアリヤーした子供たちに続いてアリヤーすることができなかったのです。彼の兄弟とその家族もまたエベネゼルの支援を通して何年も前にアリヤーしていました。

私たちはコンタクトを保ち、彼が書類を整える支援をしました。そして彼が領事館へ行く時には車を提供して領事館へ連れて行きました。そしてついに、昨年12月に、私たちは彼をアリヤー便に乗るために空港へと送りました。彼は、自分の子供たちが自分が行くのを楽しみに待っていると知っていました。

彼はイスラエルに定住して就職したいと願っています。私たちは彼の帰還を喜びました!

感謝なことに、神様のアリヤーの約束が、ブラディミルの人生において成就しました!



ウクライナ



レナ  
LENA  
ソチ代表

# 居場所を見つける

## アメリカ



デボラ・ミノッティ  
Debra Minotti  
アメリカ代表

私たちは昨年9月に、13人のユダヤ人のアリヤーを支援しました。彼らはアリヤー団体便に乗って帰還しました。アンドレスはその中の一人でした。以下は彼のストーリーです。

「私にやっと人生のチャンスが訪れました。ショアー財団の支援によって、私のクラスはみなパリのショアー記念館と、ポーランドのアウシュビッツ収容所跡を訪れることができました。アウシュビッツの門をくぐった時ほどの深い心に響く体験は今まで一度もありませんでした。家族が死に向かう行進をさせられた場所だと思うだけで、私は胸が張り裂けそうな思いがしました。

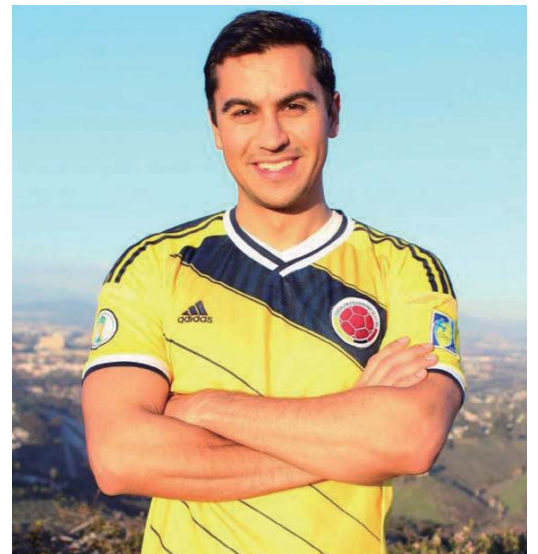
私たちは、ホロコーストの展示などをあまりにもよく目にするため、しばしばそのことに対して無感動になってしまいがちだと思います。しかし、直接この場所に来ることによってすべてが鮮明に思い起こされました。このことが今自分が立っているまさにこの場所で起こったのだということ。私が知っているユダヤ人の中で、自分の家族や親せきの誰一人ホロコーストに影響を受けなかったというユダヤ人は一人も知りません。

私はサンディエゴに住んでいました。最近私たちの住んでいるハバッドで、反ユダヤ主義者による銃撃がありました。その前の晩、私は別のハバッドの家で、安息日の夕食を食べていました。私は震えました。このようなことが私の家のすぐそばで起こるとは信じられま

せませんでした。私は自分の友人や家族のことを思っただけで不安になりました。しかし私たちが憎しみに打ち勝つためには、私たちは前向きに歩み続け、誇りを持ってユダヤ人として生きていかなければならないと思います。

イスラエルはユダヤ人として与えられた相続権です。だから私はそれを最大限に用いたと思います。何世代もの間、ユダヤ人が求め続けてきたものを、今現実として私は受け取ることができるのです。」

どうか、アンドレスのようなオリムが、イスラエルに定着し適応できるようにお祈りに覚えてください。



## 30<sup>TH</sup> ANNIVERSARY CONFERENCE

Join us in Jerusalem for our 30<sup>th</sup> Anniversary Conference

- From:** 15 Nov (Sunday) – 20 Nov (Friday) 2020  
**Venue:** Yehuda Hotel, Jerusalem, Israel  
**Price:** \$890 per person (based on twin share)  
\$1250 per person (single room)  
**Includes:** Conference programme, all meals, 5 nights accommodation at Yehuda Hotel, Half day excursion

To register your interest email [israelconf20@ebenezer-ef.org](mailto:israelconf20@ebenezer-ef.org)

'Therefore  
THE REDEEMED OF  
**THE LORD**  
will return' ISAIAH 51:11





# 英国から故郷へ

過去何か月かの間に、私たちは何組かのユダヤ人の家族が帰還するのを支援させていただきました。

そのうちの一人がアレクサンドラです。彼女はアリヤーの体験を次のように語っていました。「すべてがスムーズに進みました。すばらしい時を過ごしました。…海の風を感じるだけでも、とてもリフレッシュする体験でした。そして、自分が家に帰ったと感ずることができました。」

私たちの毎週のパーラーシャー（トーラーの一部）は、ブネイ・イスラエル（国家）がイスラエルの地と結婚するということについての箇所でした。イスラエルに遣わされた人たちのうちの10人はスパイとして知られています。彼らは長期的な堅固な関係を築こうとする大使というよりも、相手の弱さやチャレンジを求める態度だったからです。私たちはイスラエルに着いたなら、そこで大使となることに焦点をおき、私たち一人一人がイスラエルの地と幸せな結婚をすることができるように、長く続く揺るぐことのない関係を築くように努めなければなりません。そのことを可能にするための一端を担ってくださったことを本当に感謝します。」

ロブとルーシーと彼らの3人の娘たちはゴールダーグリーンにある自分の故郷を

去って、イギリスからのオリムには珍しくゴラン高原にあるカツリンに住むことを選びました。私たちは彼らの出発の日に手伝っていた時のことです。近所の人が通りかかって、休暇で遊びに行くのですか、と聞きました。彼らがカツリンにアリヤーするのだ、と言うと、驚くべきことに、この近所の人はそこに別荘を持っているので、遊びに来てください、と言ってくれたのです！

引っ越しの支援などを、ロブは私たちに感謝していました。そして次のように言っていました。「私たちは15個のスーツケースと5つの手持ちの荷物と3人の子供たちを携えて無事ゴラン高原に着くことができました。」

シャロンもアリヤーの支援を私たちに感謝していました。17歳の時にダブリンを出て、彼女はハイテクの医療器具が中東で必要であることに目をつけ、アラブ諸国でこの分野で仕事をする最初の女性となりました。彼女と家族がアリヤーすることができた主な理由は、イギリスにおいてユダヤ人にとってあま 好意的ではない雰囲気があったことと13歳の息子が学校で反ユダヤ主義によるいじめを受けたことがあります。



英国



アリソン・イー  
ストウッド  
Alison Eastwood



## 写真

上：ロンドンのヒースロー空港で、ロブとルーシーと子供たち

左：彼らの15個のスーツケース

右：イスラエル、カツリンで見える初めての夕日



# リーダーたちを整える

フィリピン



ピート・スタッケン  
Pete Stucken  
アジア太平洋

昨年7月、フィリピンの南部にあるミンダナオにおいて、牧師やリーダーのエベネゼル出エジプト作戦大会が開かれました。メインのスピーカーはスティーブ・ライトルでした。また大会においては、ナイジェル・ウッドリー、エイブ・オンマン、エベネゼルアジア太平洋地区理事会のメンバーなどがさらに貴重な教えをしました。

スティーブはアリヤーについて新鮮で力強いメッセージを伝えました。アリヤーは、今私たちの時代においてなされている神の力強い働きであり、父なる神が、ひとり子イエシュアが大いなる栄光のうちに帰って来られるための準備をされているということなのです。

大会の後でスティーブは次のように書いていました。

「イザヤ書43章において、神様はご自身の証人について語られています。アリヤー、すなわちユダヤ人がイスラエルに帰還することについて語られた後に、神様は北に向かって「引き渡せ」と言い、南に向かって、「引き止めるな」わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させる。」私たちは、何千年も前に宣言されたイザヤの預言のことばに対する神様の答えを今日見ている証人なのです。ちょうどエゼキエルが36章で預言

したように、神様は私たちの目の前でそれをなさっているのです。神様がこのことについて私に世界中で語らせてくださることは、大きな祝福です。

フィリピンでの大会の前に、スティーブは何週間かの間、中国とインドネシアで4人のチームの一人として過ごしました。「そして昨晚私は初めてのフィリピンでのエベネゼル大会から戻って来たところですよ。…この大会は多くの祈りによって準備してきた大会でした。主の臨在がその大会の場所に入った時から最後まで強く私たちの上にあります。」

霊において喜びがあり、参加者には大きな期待感がありました。主が何をなさるかかわからない状態の中でありましたが、主は決して失望させるお方ではありませんでした。…私が最初に教えたことばは「アリヤー」という言葉でした。それは、ヘブライ語で「上る、上がっていく」という意味です。この言葉は、イスラエルが、ユダヤ人がイスラエルに帰還することを意味する言葉として選んだ言葉です。私は、参加者の99.9%の人がユダヤ人の帰還については何も知らないのだとわかりました。…しかし彼らが、なぜ神がユダヤ人を帰還させているのか、またそれがフィリピン人とどのように関係があるのか、ということを理解し始めた時、彼らは本当に興奮していました。」

写真

上: ピート&フィオナ・スタッケンとロス・パノスの祈りのパートナー達

左: スティーブとピート

右: ボホイストファミリー: メネラオ牧師、リアンヌ、リア、アイジェロム牧師



# 効果的な熱心な祈り

どのような戦争であっても、最も効果のある武器を持って敵に立ち向かうことが非常に重要です。信者である者として、私たちは神が勝利のために与えてくださっているツールを用いて霊的な戦いに臨む必要があります。そのツールは祈りです！祈りは私たちが直面しているどのような抵抗にも打ち勝つ力があります。キングスレー・プリディー博士（ウェールズ聖書大学）がエベネゼルの創始者に書いた手紙にこうあります。「祈りは、第二の出エジプトが完全に成し遂げられることに対するすべての抵抗に打ち勝つでしょう。」

ヤコブ書 5章16節には、「義人の祈りは働く、大きな力があります。」 強調するならば、祈りは多くのことを成し遂げるのです。しかし、私たちは、祈りが実を結ぶかどうかその効果を決める条件があるのだということを認識している必要があります。

私たちの祈りが「大きな力を持つ」ためには、効果的な祈りでなければなりません。これは、私たちの父の御心と一致した祈りを祈らなければならないということを意味しています。そして、私たちは自分の意志を神のみこころに委ねる必要があります。とりなしというのは、私たち自身を聖霊に委ねて用いていただくことです。そうするならば、神様の思いが自分の思いとなり、神ご自身が目指しておられるものを自分も目指すようになっていくのです。

自分の意志をゆだねることにより、私たちの祈りが「熱心な」祈りへと導かれていきます。主が私たちの心を主の御心に一致させてくださるとき、聖霊様が私たちの内に情熱と重荷を与えてくださるので、私たちは激しく祈っていく必要があるのです。

また、効果的で熱心な祈りと義との間には重要な関連性があります。私たちは主に感謝します。主が私たちにイエシュアを通して、主からくる義のために立つ者としてくださっているからです。

「これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。——主の御告げ。——」（イザヤ54章17節）

畏敬の念とともに主への恐れを持ちましょう！私たちの心がいつも主に対して開かれ、主からの導きと戒めを受け入れることができ、私たちが主の内にとどまり続け、祈りの中で神様の導きを明確に受け取ることができますように！

これらのみことばの真理の上に立って、「効果的に」また「熱心に」祈り続けましょう。そして、ユダヤ人がイスラエルに帰還するための「義」の上に立って祈り続けましょう。なぜなら、私たちは、私たちの祈りが働く大きな力があると確信しているからです！

祈り



エリザベス・ウェブ  
ELIZABETH WEBB  
祈りのチーム

engage:Israel

Coming July/Aug 2020  
(18-35+)



EBENEZER  
OPERATION EXODUS

16 – 27 JULY  
ENGAGE:EXPLORERS — A tour to see the Bible come to life, experience God in a whole new way — perfect for your first time to Israel.

27 JULY – 3 AUGUST  
ENGAGE:DEEPER — For those wanting to be challenged and ready to go deeper — a week of focussed bible teaching, combined with worship and prayer based out of Haifa.

Watch this space or enquire to [info@engage-israel.org](mailto:info@engage-israel.org)



**HAIFA HOUSE**  
FOR OLIM  
בית עולים חיפה

# オリムのためのハイファハウス

イスラエル



マルクス&ラヘル  
アカーマン  
Markus & Rahel  
Ackermann

私たちは長年の間イスラエルのキブツで生活してきました。しかし、2012年に神様は私たちをドイツへ導かれました。そして、神様は私たちについていつかイスラエルへ戻ることを、そしてその時にはイスラエルにとどまるようになることを語られました。

2018年8月に、あるドイツのユダヤ人女性をアリヤー団体便に乗せるために空港に送った時のことです。ベルリンで送別式がありました。その中で、イスラエルでの新しいプロジェクトが紹介されたのですが、そのことが私たちの心にすぐに響きました。それで、私たちこのことについて神様に祈りました。そして、答えが与えられた時、本当に感謝しました！エベネゼルの方が私たちに近づいて来て、オリムのための新しいハイファハウスでホストファミリーとお世話役としてそこで働かないかと招いてくださったのです。その時私たちは、神様からのゴーサインを受け取ったと感じました。主が扉が開かれたのです！

その後、6月にドイツを去り、イスラエルの夏の暑さの中で何週間にもわたって家の改装を行いました。このために数多くの外国からのボランティアと一緒に働いて助けてくれました。この働きが行われている間に、私たちはオリムがイスラエルに着いた時に体験するような過程を体験しました。それは、複雑で困難な書類手続き、地域の役所へ何度も足を運び、学校への入学申請や、車の購入、保険加入することなどでした。何度も何度も言語とイスラエルの文化のチャレンジを体験しました。しかし、私たちはすべての状況の上に神様の御手があるのを見ました。このようにして私たちを導いてくださり、イスラエルに来るオリムのことを本当の意味で理解することができるように神様が働いてくださっていることに感謝します。

そして、ウクライナの若い男性が、初のオリムとして9月の末にハイファハウスに到着しました。この日は本当に特別な日となりました！

世界中の散らされた地から彼らの相続の地へと帰還する神のユダヤ人をこうして歓迎することができる驚くべき特権が与えられていることを感謝しています。これは、神様の忠実さの証明であり、神の預言の言葉の真実さを表しているのです！

どうか、神様がこの場所へ送ってくださる人々のためにお祈りください。彼らが神の愛と忠実さをこの場所で体験することができますように。また、私たちに知恵と力が与えられますように。また、すべてを通して神様の御名が栄光をお受けになりますように！



ハイファ・ハウスの開所式で証するアカーマン家族

## Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International

**Ebenezer Operation Exodus International & UK Office**  
PO Box 9103, Bournemouth  
BH1 9DA, UK  
+44 (0) 1202 294455  
enquiries@ebenezer-ef.org  
www.operation-exodus.org

**Operation Exodus USA**  
PO Box 568 Lancaster  
NY 14086  
Phone: 716 681 6300  
info@ebenezerusa.org  
www.ebenezerusa.org



**EBENEZER**  
OPERATION EXODUS



エベネゼール緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号  
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)  
office@ebenezerjapan.org  
http://ebenezerjapan.org/  
郵便振替 (名称) エベネゼール緊急基金  
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼール緊急基金の実際的な働き の名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。